発行所 © 日本証券新聞社
TEL 03-6268-0151
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1－1－1
http://www.nsjournal.jp/
（日刊）第18632号
土曜・日曜・祝日休刊
（昭和19年5月30日第三種郵便物認可）

経済、金融証券市場に真剣に向き合うプロフェッショナルのための総合情報紙

NSJ 日本証券新聞

Nihon Securities Journal since 1944, a member of Dreamvisor Holdings

2012[平成24年] 2/3 金曜日

1カ月4,850円・1部240円

日経平均 8,876.82 ▲67.03

NSJ

読む株価欄は7面から13面

掲載銘柄の株価をチェック！

本紙記事に掲載された主要銘柄の株価が携帯電話で一覧可能です。

QRコードは一度登録すれば毎日利用できます。

無料 是非ご利用ください。

意外！リーマン・ショック前をクリア

外食セクター 収益回復顕著で妙味大

ハイデイ日高、イートアンドなど注目

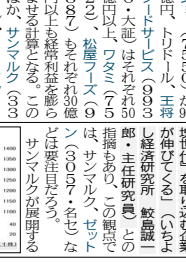
セルフ式うどん「丸亀製麺」のトリドール（3397）、居酒屋のコロワイド（7616）が上値追い展開を見せるなか、2月期末、3月期末の各種権利取りもにらみ、外食株が上昇基調、書き入れ時となる年末年始の売り上げも総じて良好といわれ、業績不安の少ないセクターとして投資資金を振り向ける動きが出てきている。

いちはや経済研究所の集計によれば、外食企業の2011年3月期の経常利益合計額（集計対象38社）は932億円となる見通し。これは、リーマン・ショック前の08年3月期にマークした経常利益合計額（775億円）を上回り、4期ぶりに最高益を更新することになる。

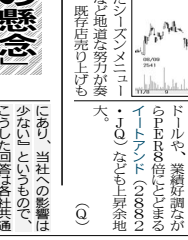
08年3月期との比較で、この4年間で、ゼンショー（7550）が95億円、トリドール、王将フードサービス（9993）、ゼット（6575）、大証（はそれぞれ50億円以上、マルハニチロ（2622）、松屋フーズ（9887）もそれぞれ30億円以上経常利益を膨らませる計画となる。このほか、サンマルク（3395）、スターバックスコーヒージャパン（2712・JQ）、モスフード（8153）も経常利益をそれぞれ20億円増伸ける。

トリドールは「セルフ式うどん」という新しいマーケットの創造により高成長を続け、松屋フーズ、セゾンショーはファミリー客や女性客の取り込みに成功したことで成長を続けている。

カフェ、レストランなどは全世代対応型で、中高年の集いの場 として や女性客の取り込みに成功したことで成長を続ける。2月期末、3月期末の各種権利取りもにらみ、外食株が上昇基調、書き入れ時となる年末年始の売り上げも総じて良好といわれ、業績不安の少ないセクターとして投資資金を振り向ける動きが出てきている。



の利用も増えている。ゼットツではハワイアンレストラン「アロハテーブル」の伸びが目覚ましいのだが、同業態の主要客層は現役世代だ。客層は現役世代だ。このほか、個別では、ハイデイ日高（7611）に注目、店長の再教育、「チケ味噌ラーメン」と



いったシーズンメニュー投入など地道な努力が奏功し、既存店売り上げも

ここ回復に向いている。株価は昨年1月高値奪回目前で、目先妙味も膨らんでいる。

また、年間100店舗を超えるペースで出店が続いている。

来期の視界良好なことからPER8倍ことまるイートアンド（2882・JQ）なども上昇余地大。（Q）

東証、15年間で8度目のシステム障害

2日241銘柄が売買停止

ソニー大証で活況、過去は不思議と相場の転機に

東証の「システム障害による売買停止」は、ここ15年ほどで8回目!?

東証で2日に生じた大規模なシステム障害が数名を呼んでいる。コマツ、ソニー、日立、東電などの主力株を含む241銘柄が、寄り付きから前場いっぱい、売買停止を強いられたため。例えばソニーは、通常ほとんど取引のない大証での出来高が代替ニーズから10万株を超えるなどのさまざまな余波が生じている。関係者らは、「これがSQ（特別清算指数）算出日ではなくて良かった」との声も聞かれた。

東証銘柄のシステム障害といえば、1月10日の情報端末QUICKに対する株価情報配信停止が記憶に新しいが、あれは、相場報道システムのファイル処理変更で、QUICK側との連絡がうまくいかなかったためで、売買には支障が生じていない。相場報道システム自体に不具合が生じた今回とは全く違う（東証・株式部）とのこと。

それでは、システム障害で「ほぼ」東証売買停止は過去にはないのか。

①1997年8月1日・前場中全銘柄売買停止（当日の日経平均▼327円）

②2001年6月12日・新規上場のソフト99終了売買停止（同▼386円）

③05年11月2日・午後・時30分まで全銘柄売買停止（同△261円）

④06年1月18日ライブドア・ショックの余波から午後2時40分以降、全銘柄売買停止（同▼464円）

⑤08年2月8日後場、TOPIX先物の売買停止（同▼189円）

⑥08年3月10日・アルプス電気、名鉄の売買停止（同▼220円）

⑦09年10月30日ファーストリの売買停止（同△113円）。記録のさかのぼれる時点からで、今回が8回目となる。なお、新売買システム「アローヘッド」導入後では初。

ちなみに、大証の場合、1995年1月17日の阪神大震災当日、全銘柄売買停止となったのは方がないが、それ以外では、2002年11月25日に銘柄の売買が30分選れ（9時30分開）となった例がある程度。「システム障害による売買停止は、その後一度も生じていない」（大証・担当者）とされる。

ともあれ、ほかのJASDAQや名証などの記録などとって、東証同様、システム障害（売買停止日の日経平均は安い日が多く、当該銘柄を売買しない分、ヘッジの先物売りがかかむとの声も聞かれる。また、過去の東証売買停止日をたどると、不思議と相場の転機の近辺で生じていることもあるが、さて、今回はどうなるのか。（A）

意外！リーマン・ショック前をクリア

野村HD 急伸でも「2つの懸念」

昨年6月の"敵役"クレディスイスは最上位格付け

野村HD（8604）を（モルガン・スタンレー）、「収益改善の持続性が問題」（ゴールドマン・サックス）など、四半期決算が市場予想を著しく下回ったことを受け、前日米のメガバンク人気も波及た格好だ。

すかいらーく株式の売買停止、注目上位に引き上げ、注目を集めた。というのも、昨年6月、クレディスイスが野村HDに、ノムラ・インターナショナルがクレディ・スイスに、ネガティブな内容のレポート発行し、「売り収益基盤が強化されたわけではないことのせいか、証券各社レポートの見出しは「正念場を迎える」（メリルリンチ日本、「黒字確保はポジティブ」、しかし市場の懸念は残る）（モルガン・スタンレー）、「収益改善の持続性が問題」（ゴールドマン・サックス）など、四半期決算が市場予想を著しく下回ったことを受け、前日米のメガバンク人気も波及た格好だ。

継続がほんとに、中でクレディ・スイス証券のみが最上位に引き上げ、注目を集めた。というのも、昨年6月、クレディスイスが野村HDに、ノムラ・インターナショナルがクレディ・スイスに、ネガティブな内容のレポート発行し、「売り収益基盤が強化されたわけではないことのせいか、推奨の持ち合い」などとの反応の割にアナリストは、しかし市場の懸念は残る

野村HD（8604）を（モルガン・スタンレー）、「収益改善の持続性が問題」（ゴールドマン・サックス）など、四半期決算が市場予想を著しく下回ったことを受け、前日米のメガバンク人気も波及た格好だ。

継続がほんとに、中でクレディ・スイス証券のみが最上位に引き上げ、注目を集めた。というのも、昨年6月、クレディスイスが野村HDに、ノムラ・インターナショナルがクレディ・スイスに、ネガティブな内容のレポート発行し、「売り収益基盤が強化されたわけではないことのせいか、推奨の持ち合い」などとの反応の割にアナリストは、しかし市場の懸念は残る

ともあれ、株価への好材料は、ムーディーズによる格下げ懸念（毎月第2週）、「ムーディーズによる格下げは行われない」（大証・担当者）とされる。

①は、ムーディーズによる格下げは行われないとの見通しが、現在のBBBから2ノッチ（以上）引き下げられて投機的階級となる可能性は非常に低い。問題は、引き下げ時に"ネガティブアウトルック"がつくかどうかだが、コストダウン計画の進ちょくは今年度6割となる見通しで、少なくても来年上期の動向を見てからの判断となるため時間的余裕がある。

②については「1日の懸念材料」問題は、「先の日本経済新聞」にもあるように、財務基盤は、むしろ強弱感対立による仕手化の要因を踏まえた上で、注目しておきたい。（A）

ダイハツ 一段高有望

10－12月期挽回鮮やか

ダイハツ工業（7262）が、30％近く上昇基調に陥った。ダイハツ工業（7262）が大幅反発、1日に付た作年来高値（1530円）奪回後の一段高が望ない。

1日場中に今3月期第3・四半期（3Q、昨年4－12月）決算を発表し、増収増益の好決算を発表し、増収増益の好決算を発表し、増収増益の好